

みえ農業版MBA養成塾に関するFAQ

Q1： 「みえ農業版MBA養成塾」は、どのような狙いから開設するのでしょうか？

最近の三重県内における新規就農者は、年間130名程度で、その7割から8割程度が農業法人に雇用される形で就農しています。

今後も新規就農者を増やしていくためには、雇用をしていただく農業法人の確保が重要と考え、そのためには、若者に魅力的でやりがいのある就業の場を提供できる先進的・革新的な農業を展開していける農業法人の経営者となるような“農業ビジネス人材”を確保・育成していく仕組みが必要と考え、このような養成塾を開設することとしました。

Q2： この養成塾の特徴は、どのようなことでしょうか？

特徴は3点です。

1点目は、グローバルな視点からビジネス展開を考える、県内の先進的農業法人でインターンシップとして働きながら、本格的に農業ビジネスを学べる環境を提供することです。

2点目は、農業経営のみならず、企業経営やリーダーシップ論に加え、食品の流通・加工やGAP、HACCPといった川上から川下までのフードマネジメントをトータルで学ぶプログラムを提供することです。

3点目は、三重大学大学院地域イノベーション学研究所と連携し、地域社会や農業を含む企業の現場における課題や対応策を学生達と議論・演習できる機会を提供するとともに、塾生個々のビジネスプランの構築をサポートすることです。さらに、修士の学位取得を目指す塾生には、同大学院と併学できる環境を提供することです。

Q3： 塾生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）とは、どんなものですか？

養成塾では、先進的・革新的な農業ビジネスを展開するとともに、若者等に対し、“やりがい”のある質の高い就農の場を提供していける、若き農業ビジネス人材として、ビジネス志向の強い起業家や、地域農業の核となる地域イノベーター、農業法人のビジネスマネージャーなどを志す人材を受け入れ育てることとしています。

なお、特に修士の学位取得を目指す者については、三重大学地域イノベーション学研究所との併学により、育成を図ります。

- ・農業ビジネス起業家とは、異業種と連携しながら、ICTや自動制御など最新のテクノロジーを活用するなどして、大規模農業や施設園芸などの経営を行う起業家
- ・農業を核にした地域イノベーターとは、農業を中心に据えて、地域課題に新たな発想と明確なビジョンを持ち、様々な関係者と連携しながら、ビジネスの視点から解決に向けて取り組むリーダー（例えば、集落営農6次化モデル、都市部における直売所開設モデル、市民農園運営モデル、地域商社経営モデルのリーダー、etc）
- ・農業法人等のビジネスマネージャーとは、農業法人において、経営者の右腕となり、経営をとりしきる管理人材

Q4： 「みえ農業版MBA養成塾」の開設に際しては、外部の意見も取り入れたのですか？

若き農業ビジネス人材の育成を、県施策として具体化するため、平成28年7月から、県内の先進的な農業法人の代表者や学識経験者など8名で構成する、「三重の農業若き匠の里プロジェクト実行会議」を設置し検討を進めてきました。

具体的には、本県の農業の現状や課題を踏まえた上で、次世代農業の主軸となる若き農業人材を呼び込み、育成していく方策として、会議員から、さまざまなアイデアや協力していただける取組などの提案を受けながら、検討を進め、農業大学校にこうした養成塾を設置することとしました。

Q5： 「みえ農業版MBA養成塾」は農業大学校の課程に位置付けられているのですか？

農業大学校は、農業経営者の育成を図る地域の中核的な教育機関（専修学校）として、基礎的な就農に向けた栽培管理技術や農業経営などを教える養成科（1年・2年課程）と、就農後の定着や農業者の経営発展に向けたリカレント教育を行う研修科があります。

みえ農業版MBA養成塾は、主に社会人経験者を対象に、雇用型インターンシップを中心とする実践的なカリキュラムを行うこととしているため、研修科に位置付けています。

**Q6： 「養成塾」の塾長、名誉塾長には、どんな役割があるのでしょうか？
また、運営体制は、どのようなもののでしょうか？**

塾長には、全国的に6次産業化やブランド化戦略で傑出した存在で、起業のロールモデルとなっている伊賀の里モクモク手づくりファームの木村会長に就任していただき、スタートアップ特別講義を行うなど、養成塾の「顔」としての役割を担っていただきます。

また、名誉塾長には、三重県知事になり、県内外での情報発信とともに、塾生との意見交換なども行う予定です。

運営事務局は、県農業大学校の農業ビジネス人材育成課に設置し、研修科の取組として、各種講座を運営するとともに、三重大学地域イノベーション学研究科やインターンシップ受入法人等との連携に向け、コーディネートを行います。

**Q7： 養成塾の募集対象を社会人経験者中心にしたのは、なぜでしょうか？
また、三重県外からも塾生を受け入れていただけられるのですか？**

雇用力のある農業法人等を育成していくためには、農業をビジネスとして展開していける人材が求められています。早期に農業を軌道に乗せ、ビジネスとして展開していける人材を想定した場合、企業等におけるキャリアや人的ネットワークなどを生かしながら、事業展開を図ることができる社会人経験者を育成することが効果的と考え、対象としたところです。

なお、農業を核としたビジネスの展開や地域農業のイノベーションの創出に向け、意欲が高い人材の場合には、4年制大学の新卒者等も対象にしたいと考えています。

また、塾生については、三重県内に留まらず、全国から、三重県内で農業ビジネスの展開を志す者を幅広く募集します。

**Q8： 三重大学大学院地域イノベーション学研究科との併学とは、具体的には、どうい
うことでしょうか？**

養成塾の塾生として学びながら、三重大学大学院地域イノベーション学研究科に合格すれば、大学院生となって、両方で学べる環境を提供するという事です。

当大学院研究科への入学試験は、毎年8月から10月頃に行われており、塾生が入学を希望する場合は入塾した当該年度の入学試験を受け、翌年度の4月から大学院に入学することになります。この場合は養成塾と大学院でトータル3年間学んでいただくこととなります。

一方で、大学院の入学合格者が、当該養成塾に入塾する場合には、インターンシップ先の内諾を得て、養成塾の選考に臨んでいただくこととなり、この場合はトータルで2年間学んでいただくこととなります。

Q9： 養成塾と三重大学大学院地域イノベーション学研究科との連携は、どのようなものでしょうか？

塾生においては、当研究科の大学院生でなくても、当研究科のカリキュラムにある「プロジェクトマネジメント演習Ⅰ・Ⅱ」を受講することにより、インターンシップ先における実経験の中で把握した課題とその対応策などを他の社会人大大学院生などしっかりと議論・検討ができます。

また、当研究科の教員からも、塾生のビジネスプランの構築に向けてサポートしていただけることとなっています。

Q10： 受講料は、必要なのでしょうか？

農業大学校養成科の年間授業料（118,800円）と同額を受講料として徴収します。

なお、三重大学地域イノベーション学研究科（修士課程）に入学して併せて、養成塾に入塾する者は、受講料を免除する予定です。

Q11： カリキュラムを履修すれば、すべての塾生が修了生となれるのでしょうか？

経営者としての可能性や、今後のビジネス展開等が期待できるとして、一定レベル以上の評価を得た塾生に対して、修了証を交付することとしています。

特に、評価については、

- ・プライマリーコース（1年次）修了時には、受入法人等のインターンシッププログラムに沿った習熟度を評価するとともに、塾生のビジネスプランの基礎となる企業内起業的な取組の提案を求め、将来の経営者としての可能性を評価
- ・アドバンスコース（2年次）修了時には、養成塾修了後に実現を目指す塾生のビジネスプランについて、民間金融機関やベンチャーキャピタル等の参画を得て、新規性や実現性等の観点から評価

することとしています。